

2023年6月27日

ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 学校関係者評価報告書

ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校
校長 三浦 スミエ

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 学校関係者評価委員会は2022年度（令和4年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2023年6月27日 13：00～15：30
2. 場所：ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校
3. 参加者

学校関係者評価委員

進藤 大	(株式会社sline (美容室サンベイス) 代表取締役) (日本美容業生活衛生同業組合連合会 渋谷区副支部長)
宮腰 大司	(有限会社ヘアゲスト 代表取締役)
東 千晶	(株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
杉原 昭二	(学校法人ミスパリ学園理事、評議員)
須賀谷 映子	(NPO法人日本スパ・ウェルネス協会 教育委員長) (学校法人ミスパリ学園評議員)
越川 治枝	(株式会社シェイプアップハウス 教育部 部長)

事務局	杉山 枝里	(ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 副校長)
	森島 和美	(ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 部長)
	川原田 恵美	(ミス・パリ エステティック専門学校名古屋校 教育課)

1. 学生アンケート結果における改善点

【現状、取り組み】

2022年度に行ったアンケートは①入学後アンケート②授業アンケート③卒業時ご家族アンケートの3種類を実施した。①入学後アンケートでは、在校生・教職員のおもてなしや立ち居振る舞いに憧れを抱き入学したこと、②授業アンケート（前期）での学生の意見からは、授業に対しての具体的な不自由さや要望が上がっており、学習意欲の高さがうかがえるような意見が多かった。しかし、②授業アンケート（後期）では、学生のやる気が損なわれていると思われる意見が見られた。授業アンケ

ート結果は集計後、校長との面談や講師研修で改善事項などのフィードバックをしている。③卒業時ご家族アンケートは卒業式に参列いただいたご家族様に回答いただき、親御様も学生の成長を感じられたという意見を得ることができた。また、卒業後のフォローアップの要望も上がっていたため、上級試験の対策講座やBWP (Beauty & Wellness Partners) と連携し再就職の案内ができる状況を強化し、卒業生に案内していく。

授業アンケートの数値(満足度)は85~96%の値であり、概ね授業満足度は得られていると読み取れる。しかし、前期よりも後期の結果が低くなっているクラスがあること、進級率が前年度より低下していることから、アンケート結果を教職員全体に共有し、授業方法を改善して、学生の学習に対するモチベーションを維持できるようにする。具体的な取り組みとしては、授業アンケート(後期)で満足度が低下していた理論授業の研修を早急 to 実施し、教職員全体で理論授業の改善について意見交換を行う。また、学生が教職員に憧れを持てるよう、教職員は就業規則、教育理念を遵守するとともに、教職員の人間力、表現力を上げる研修も同時に行う。

2. 評価点の理由

【現状、取り組み】

2021年度は進級率が前年度と比べ増加したこともあり、2022年度は同様の方針で学生指導にあたった。

2022年度の卒業率は増加したが、進級率が低下することとなった。また、授業アンケートの結果(前期よりも後期が下がった)や、試験結果が2021年度よりも低下していることから、2022年度の自己評価は学生指導に関する6項目(教育活動:3項目、学修成果:2項目、教育環境:1項目)が下がる結果となった。

以上のことから、授業方法の改善と、教職員の人間力、表現力、指導力を向上させることで、授業満足度を上げ進級率を回復させる必要がある。

3. 2023年度、重点的に取り組む施策

【進級率回復のための取り組み】

学生募集

- ・入学後にギャップを感じないように、入学後アンケートの結果をイベントや学校説明の内容に反映していく。
- ・入学生の特徴を、担任・副担任へ詳細に共有することで、学生の変化に気づきやすくする。

教務

- ・統一した指導をするため、教職員全員でディスカッションし、「2023年度 指導統一事項」を作成、共通の認識で学生指導にあたる。
- ・補講申し込み方法を改善し計画的かつ有効な補講を実施する。

教職員全体

- ・学生が教職員に憧れを持てるよう、就業規則、教育理念を遵守する。
- ・講師の人間力、表現力、指導力を向上させるために1年間かけて講師研修を実施する。
- ・毎月職員会議を全教職員で実施し、学内の情報共有ができる環境づくりを行う。

《委員より》

授業方法の改善と教職員の講師研修について、1年かけて行うのではなく早期に取り組めることは取り組んで、改善を図るようにしてください。

《その他、委員からの質問》

- ・学生募集について中、高等学校からのインターンシップを積極的に受け入れるとありますが、このような依頼は多数あるのでしょうか。
→新型コロナウイルス感染症流行前は高校生、中学生のインターンシップを多数受け入れておりましたが、2020年以降は高校1校のみです。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことでコロナ前と同様もしくはそれ以上のインターンシップの受け入れができるように取り組んでいきます。
- ・2年生の面談は2回の実施がベースのようですが、不足は感じないでしょうか。
→学年担当講師が不足と感じているか調査し、面談回数についても再検討していきます。
- ・学生への言葉の配慮を課題と上げていますが、自己評価は5となっている。何か一時的な問題があったのか、学生の認識と教職員の認識に違いがあるのでしょうか。
→昨今の人権意識が高まる中で、何気なく使用する言葉でも受け取り側に誤解を招く表現となることがあるため、教職員の人間性、語彙力を高めていくために課題としています。

4. 全体総括

今回の学校関係者評価委員会で3項目について発表をした。1、アンケート結果 2、評価点の理由
いずれの項目においても「学習のモチベーションの維持・向上」「授業満足度の向上」が課題であり改善が必要である。2022年度のアンケート結果の中から、早急に改善できる内容は研修ですぐに取り入れ、同時に長期的に改善すべき内容も取り組むことが重要であることから、2023年度の研修計画を見直すことが求められる。また、この結果を教職員全員へ共有し、教職員一人ひとりが課題や目標をもち研修に取り組むことで教職員の人間力、表現力を向上させ、一時的な改善にとどまらず、「学生がミスパリで学びたい」、「ミスパリで学んでよかった」と思える学校づくりを行う。そのために学生が教職員に憧れを持てるよう、就業規則を遵守、教育理念を理解し指導にあたる。今回の学校評価委員からのアドバイスにより教職員間の共有、教職員全員での取り組みに不足があることに気づき、すぐさま評価委員会の内容を全教職員に共有、ディスカッションを実施した。今後も、常勤、非常勤問わず全教職員が共通認識を持ち一丸となって授業満足度の向上、進級率の改善に取り組んでいく。

以上